

子どもの性差を通してみた親子関係の意識の違い

The Difference of Parent-Child Relation between Sons and Daughters

田 中 正
Masashi TANAKA

親子関係がいかなる状態にあるかは子どもの成長のうえで重要な要素になっている。本研究は、人間形成のうえで重要な要素をなしている親子関係それ自体を取り上げ、父子関係と母子関係別に息子と娘によってそれぞれどうとらえられているのか（性差）をみたものである。

結果として、父子関係では男女によって違いがあり、男子は父が自分に対して統制的で厳しいととらえ、女子は父が受容的でやさしいととらえる傾向にあること。父子関係を親子関係の型別で見ると「拒否的自律型（放任型）」、「拒否型」、「拒否的統制型（残酷型）」で男子は女子に比べて多くなり、女子では「受容的統制型（過保護型）」、「受容的自律型（甘やかし型）」が多くなること。

母子関係では男子、女子の違いによる性差が現れないこと。また母子関係を親子関係の型別で見ても性差は現れないことが分かった。

いずれにしても父子関係の場合には、母子関係とは異なり、父-息子関係と父-娘関係とが違っていることは確かであり、世に言う父が娘に甘く息子に厳しいというのは現実であり、リアルな事実である。

キーワード：差異，親子関係，息子，娘

Difference, Parent-Child Relation, Sons, Daughters

目 的

親子関係は子どもの人間形成のうえで重要な要素になっていることは言うまでもないことであるが、世に“父親は娘に甘い”とか、“親は男の子に厳しい”とか言われ、両親の子どもに接する態度が息子と娘によって異なっているようである。はたしてそれはムード的なものなのかそれとも現実の親子関係の中で真にリアルな事実なのだろうか。

本研究は、それを子どもの意識の側から検討したものであり、自分と親との関係を子どもがどう意識しているかを父子関係と母子関係別に男女間で比較検討したものである。なお、親子関係を子どもがどう意識しているかに関する性差に基づく研究は私がみた限り

ではあまり見られない。

方 法

調査日時：2004年6月

調査対象：名古屋文理大学および同短期大学部の1年次生。男子78名，女子78名。

実施方法：授業時間に親子関係診断尺度EICA（日本・心理テスト研究所）を配り実施。

親子関係診断尺度EICAの構成因子

一次因子

二次因子

情緒的支持 (ES) 受容性 (AC) 対拒否性 (RE)

同一化 (ID)

統制 (CO) 統制性 (CO) 対 自律性 (AU)
自律性 (AU)

情緒的支持・・・子どもが、父（または母）が自分を支持してくれていると認知する傾向を調べるもの。

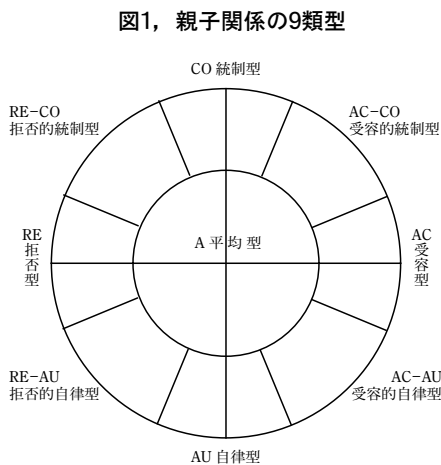
同一化・・・子どもが、自分の父（または母）が自分と一体感をもち、意識の底で子どもを親自身と同一化し、自分の延長あるいは分身として子どもを認知していることを子どももまた認知している傾向をとらえるもの。

統 制・・・親の子どもへの統制、しつけ、訓育、勉強等へのきびしさを子どもがいかにか認知しているかを調べるもの。

自 律 性・・・子どもの人格を認め、自律性を尊重し、子どものことは子ども自身に任せようという親の態度を子どもがいかにか認知しているかを調べるもの。

親子関係の9類型・・・受容型、拒否型、統制型、自律型、受容的統制型（過保護型）、拒否的統制型（残酷型）、受容的自律型（甘やかし型）、拒否的自律型（放任型）、平均型。

親子関係の9類型は、図1に示すように、親子関係診断尺度の二次因子の AC 得点を横軸、CO 得点を縦軸とする円座標上に父または母の座標点を求め、その座標点が位置する領域によって決められる¹⁾。



調査票

私の父は（私の母は）

- 1, なんでも私がしたいようにさせてくれる。
- 2, 私が家の手伝いをしないと腹を立てる。

・
・

39・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

40・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

項目の質問に対して、“はい” “?” “いいえ” でこたえ、得点化する。

結 果

父子関係について（表2）、一次因子では「自律性」を除いて他のすべての因子で性差が現れた。「統制」は男子が女子に比べて有意に高く、男子は女子より親の子どもへの統制、しつけ、訓育、勉強等への態度を厳しいと認知している。「情緒的支持」と「同一化」は女子が有意に高く、女子は男子よりも、父が自分を支持してくれていると認知しており、また自分の父が自分と一体感をもち、意識の底で子どもを親自身と同一化し、自分の延長あるいは分身として子どもを認知していることを自分もまた認知している。二次因子では「受容性 対 拒否性」で性差があり女子が男子より有意に高く、女子の方が父が受容的であるととらえている。また「統制性」対「自律性」は10%の低い水準ではあるが男子の方が統制性が高くなる傾向にある。母子関係については（表3）、一次因子、二次因子ともに性別による有意な差がほとんどない。

表4は親子関係の型別にみた男子と女子の人数を示

表 1, 調査対象者平均 (上段一平均、下段一分散)

	自律性	統制	同一化	情緒的支持	統制性	受容性
男子	7.98	5.9	6.01	10.39	13.88	16.4
女子	28.6	27.2	21.5	29.1	83.9	76.2
	7.78	6.03	6.94	11.76	13.81	18.7
	26.0	22.8	26.4	32.4	66.9	89.5

**表 2, 父子関係の男女別比較
父子関係 (上段一平均、下段一分散)**

	自律性	統制	同一化	情緒的支持	統制性	受容性
男子	8.25	6.92	4.66	9.0	15.13	13.77
女子	25.6	27.4	12.5	26.5	75.2	59.6
女子	7.75	4.88	7.35	11.68	12.64	19.04
t - 値	32.3	25.6	27.4	29.1	91.7	80.8
	0.52	2.47*	3.76*	3.05**	1.7†	3.93**

**p<.01 *p<.05 †p<.1

表3、母子関係の男女別比較
母子関係(上段一平均, 下段一分散)

	自律性	統制	同一化	情緒的支持	統制性	受容性
男子	7.06	6.66	6.71	11.06	13.73	17.78
女子	8.50	5.39	7.16	12.46	13.9	19.63
t-値	1.76 †	1.66 †	0.54	1.53	0.13	1.22

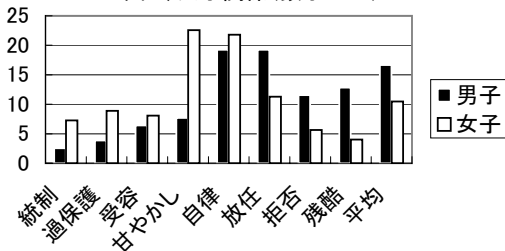
**p<.01 *p<05 †p<.1

表4、父子関係の型と男女別人数

	父子関係		母子関係	
	男子	女子	男子	女子
統制	2	9	2	4
過保護	3	11	1	7
受容	5	10	5	10
甘やかし	6	28	9	17
自律	15	27	18	27
放任	15	14	19	21
拒否	9	7	5	14
残酷	10	5	5	6
平均	13	13	14	18

カイ二乗値 20.9 5.87

図2、父子関係(数字は%)



す。父子関係の型と母子関係の型に性差の影響が現れているのかを調べるためカイ二乗検定を行ったところ、父子関係の型で性差が現れ ($\chi^2_{(8)} = 20.9, p < .01$), 母子関係の型では現れない (5.87)。図2は性差の現れた父子関係だけを取り上げて父子関係のそれぞれの型に位置する人数の割合をグラフにしたものである。男子では「拒否的自律型(放任型)」、「拒否型」、「拒否的統制型(残酷型)」が女子に比べて多くなり、女子では「受容的統制型(過保護型)」、「受容的自律型(甘やかし型)」が多くなる。

まとめ

父子関係では男女によって違いがあり、男子は父が自分に対して統制的で厳しいととらえ、女子は父が受

容的でやさしいととらえる傾向がある。

また父子関係を親子関係の型別でみても男子では「拒否的自律型(放任型)」、「拒否型」、「拒否的統制型(残酷型)」が女子に比べて多くなり、ここでも男子は女子よりも多くの者が父によって受け入れられていない型に自己の父子関係を位置づけている。逆に女子は過保護型、甘やかし型に自己の父子関係を位置づけている。

母子関係では男子、女子の違いは現れない。ただし、それは母親が男子、女子の子どもに同じように接していることによるのか、母が違って接していても子どもがそれを意識しないことによるものなのかは分からない。また母子関係を親子関係の型別でみても性差は現れない。

いずれにしても父子関係の場合には、母子関係とは異なり、父-息子関係と父-娘関係とが違っていることは確かであり、父が娘に甘く息子に厳しいというのは現実であり、リアルな事実であることが分かった。

注

- 1) 親子関係診断尺度 EICA 実施手引(日本・心理テスト研究所)では10類型になっているが本研究では平均型と順平均型をまとめて平均型とし、9類型にした。